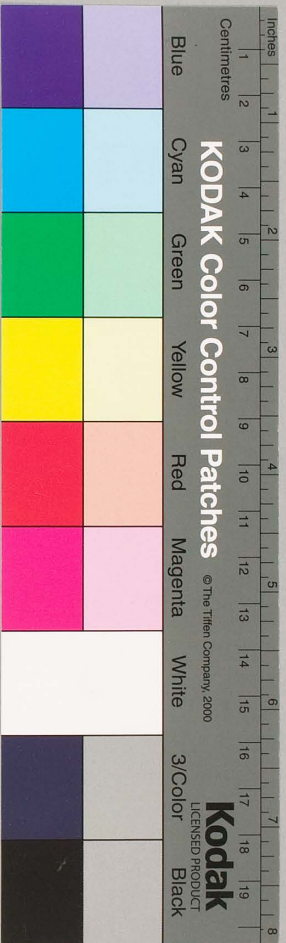




0350



都名所圖會

後玄武

291.6209
Ak
6

都名所圖會卷之六目錄

後元武

下加茂
 葵宗之家
 岩本社
 濟美薩比
 行遠土手
 北岩倉雲寺
 太良坊社
 暗部山
 靈源寺
 藥師寺
 岩門
 御手洗川
 慧馬圖
 松ヶ崎
 地藏堂
 八塩岡
 智辨水
 ふごぼろ
 帆立石
 神光院
 燈ヶ峯
 光悦寺
 河合社
 上加茂社
 本涌寺
 幡枝圓通寺
 長谷八幡宮
 鞍馬寺
 竹伐家
 大悲山
 正傳寺
 法善壇林
 千束
 紀川原涼圖
 橋本社
 妙泉寺
 市京小町寺
 朗孫谷
 僧正谷
 貴船社
 西加茂
 送火舟
 源光菴
 題目堂

喜多八重子氏寄贈



善提瀧	岩屋山	小野道風社	冠石
紫野大徳寺	今宮社	やまのこゝろ系	常盤前古跡
義経誕生水	舟岡山	雲林院	蓮臺寺
今宮御旅	金山天王寺	紅梅殿	七の社
清和院	立本寺	焰魔堂	釋迦堂
引接寺	轉法輪寺	七本松	芝居
北野天満宮	内野遊女町	東向觀音	糸向松
大岡茶湯旧地	願成就寺	平野社	紙屋川
金岡寺	衣笠山	鏡石	等持院
芙蓉池	龍安寺	真如寺	妙心寺
双園	兼好古跡	法金剛院	西光菴
御室仁和寺	花盛園	大内山	昭滋妙光寺
印金堂	泉谷法藏寺	西壽寺	般若寺

三宝寺	五智如來	宅魔塚	平岡八幡宮
梅畑善妙寺	柵尾專山寺	柵尾西明寺	高雄神護寺
清瀧川	地藏院	紅葉名所	

楓の小川を
 舟に漕ぎ
 一名ふくと
 奈波社の
 うしろ娘
 流る
 細川之
 新柳
 風そとく
 向ふの
 小川に
 クササハ
 みそねを
 こまの
 志
 ありたり
 次第













松ヶ崎



ちとせ 崎
松の 崎
むれ 井
の 井
あま
の 阿

え 彌



松ヶ崎

松ヶ崎

海善薩池



松崎本涌寺の圓基日坐上人して日蓮宗流なり天正年中に法華圖純

の字室とるが泉も日像上人れおくれのいし新あして日宗なり

毎兼七月十六日堂の主人少てけ里の老若男女うち交り題目より歌

はけ森やうしく柏子とり踊り舞たり早さん松崎の歌園むらりそ

名小言し其夜うしらのふ小ねつめ法の二字と焼火に歌

舎の送火ととるなり

所菩薩池の幡枝にありて傍り地蔵堂あり平相園法盛の代西

法師のいふかみしやう地蔵ありの其一なり

市原の普陀洛寺のいしへ清原深喜父の幽棲ゆふ雨と森地へをり

丑寅のくくあて堂の若くして後白川上皇太京の女院と訪ゆをてけ

所取通り善陀洛寺小所幸の事あり

の墓ありあり人市原が海よりしとて一しとてくわのけり

秋風の吹りしけてもあかめく小野といふ一落れいなり

市原小町寺



小名藏丈を寺の天台宗にして存するに親世をれ立像有り行基乃地
 とを梓けるのくわい王様の小れを小宗をのたすしく所あり元人は
 をあやむむよよして勅使として右近衛中将何某はあり見せぬ
 のふけふれ頼有り勅使不儀小名いぬ今うち息持としてつらうり
 香依つてれろ老尼現れ白地あり親世を臨地と云ふ時小
 つく異香四方に薫つて壘嶽あり星と窺ふるといふも樂と奏して
 其中より親世をれ光明赫々とはる體依れあてけ地小休藍とて
 のして行基れ地りぬいし尊像派奉るとる大をよれ頼の詔小つて
 佐理卿筆紙深さむいりり今本堂の同基の智多僧云有り信教書又いふ
 を名藏とるのくわい詔ありと云ふ機の四方に石藏といふる小徑王
 を納めらる具通りよ石座明神まはははるるれゆふん有り
 八鹽圍いむろねの相成りて秋のそ人紅葉とるる蜀錦を敷小らしく
 あくば今小の尾橋小少一抄



北岩倉大雲寺

八鹽岡



長谷八塩宮ハ惟仁親王の勅傳シテ所之長谷花園中村ニ郷

の氏神ありて祭ハ八月十五日神樂一基あり

朗詠合ハ大納言公任御の幽居シテ高松より此所ハ長谷川

を借テ水ノくさリ山中にテ入ルニ又六町をウリコレ成ニ

解脱寺トシ四地あり今小礎石ノ跡あり押ノク公任御

出家シテ入ルニ一町をウリ小ニ又此ノ平地あり

彼御ハ所ニ住リハ和漢朗詠集成撰トシ一トあり又

所所谷トシ

世々を以テ長谷リ住リテ入ル中おのともあり

長谷川を八塩の是れ小塩谷より流レ出テ長谷村の中成

西へ向テ流レ余大ニ其ノ流リ小ニ成テ幡枝ニ入リ

花園ハ長谷村南にあり

花園ハ長谷村南にあり

鞍馬寺



山色
の
石
の
あ
ら
わ
い

小
の
月
の
影



後拾
任
の
月
の
影

さ
ら
な
ら
な
ら
な
ら
な

山
色
の
石
の
あ
ら
わ
い

杜
院
中
勢

松尾山鞍馬寺より寺より白鳳十三年天武帝大友皇子は所せし
舟のいりて鞍馬をけるは所せしより鞍馬と名つけしなり
けし延暦十六年に大中寺藤原氏の宗創りけし人佛小僧なるも
た勝地を求め精舎をいへりおみ親世者た徳を安重せんとたに形り
あつ夜の爰に洛水の心鏡ふりて息をくして白髪を老翁に言て曰は
天下はとくれ形に之銘ふ似てけりしなり親世たるはく汝はよも精舎を建
立せし利益を承りてんはたを承りて名をいへり王城の徳護を能く
より養て何れの所にもあつてありては久しく飼ひ白馬に鞍馬を
ひりし摩騰法蘭の舍利像經と白馬に茶衣具小來れりて白馬に
垂畜たり汝定て爰の地を承りてを承りて汝はけしを汝放し其
る初の小なるふは藤原中ゆを止りぬ童歸つといひりて若くを承りて
具に汝を承りてたつたつとと叢林小毘沙門天の像を汝承りて
宇といふもそは像が安重せりといふも親世の像とて承りてけし

とげざりてとて又其夜の爰に天を承りて曰汝多門天は像が汝と
親世者なりとて庭に親世と多門天は名に異なりとも一辨なりとて後
獲ひ今いえりと初疾せり又一宇汝といふもそは子親世と安重は今
の西に親世院とありて正月朔の寅の日法人釋教とありて毘沙門天
十持の縁とありて又人相を承りて買入りて四つおれ利燈小虎乃を
踏む勢を絶くしては日承りたり 六月廿日の竹伐といふ所は
人本堂と西の親世堂に集りて一丈をうりあり青竹双方に之を承り
堂は近江方親世堂は丹波方とありて一の院院法蓮を信しよに相
承れありて合せかの竹を三層小堂なりて堂をり一の曲切石れりて是より
仁やと走りゆく早と勝とするは来由は性者南都招提寺の鑑直信正
けしよも入れしに雄雄の大池ありてまはつた蟠る傍正まはつたお念
わりとれいこの池小盛たり今一ふ白ひてそよりして人と恨す
あつ又當に用あるがく絶するなりとて社やまをりそを承り

六月廿日
鞍馬の竹伐



僧正谷寺
陀らみ
貝ぬく
僧よ
四人こ
具角

本堂に小川の園伽水溜りて涌出今にたゆむるはふる竹伐の
蛇ふるをく星成きりて魔反拂ふり扱又夜にへく異像をそんを堂
れ中の座やめ魔流法力を祈殺し又祈法をるありの儀人より
毘沙門天はる夜若かり夜を止む時ふも若かり事妙不空像のるこも
多かりた観してわて夜

鞍馬の竹伐はの氏林少て大門のうらみありあわわくく後大己貴余
一産有り朱雀院の御時天慶年中に勅信ある由本く号する事天子此
淨願阿くひ世のさかたご観此社小のけらく有り
倉石焼炭本芽漬はけ所は名春有り難ねるく手様世ふ念る
ふ様
庭たけくくまれのうに様も枝およわもく
ま本
是やこのまらさくはくく手様もまれのふさくさく
袖中抄云う
を殊様の唐鞍はを殊み似るに鞍の縁は云うのと
僧正谷の源本ある異人に遇會刺撃乃法さはくさく人あくなり

九月九日



西加茂



毎年七月
十六日送火
して此の
町を焼く
事がある
とのゆゑ

正傳寺



薬師山



岩屋山金峯寺の漏樹峰の山あり奉尊不動明王は山に
茶王菩薩現しあり壺場之同基は役行者又弘法大師の
て壺は飯修しあり所より棧敷嶽の岩屋より一里よりあり
ありて惟喬親王掃墓といふあり幽居ありし所あり

西加茂神光院の同基弘法大師より自他像の像は
愛條明王弘法大師の五叶奉れ丑の月丑の日に至れハ尚深より
同所靈源あり後水尾法皇の御願にて同基佛壇の尊尊釋迦佛の他ハ
隆水尾帝の聖像又同所像依安原辨財天社の御像
吉祥山正傳寺の同所あり禪宗あり同基ハ東岩宏光禪師之
一山ハ楓樹多くありて紅葉は千枝爛熳して楚岸兵江と
ありしなり

舟れ送り火を正傳寺のうしられしあり例年七月十六日れ育に
け所あり船の形小火を焼聖靈舎の送り火とする

薬師山の草堂をむとじて瑠璃光如来を安置しつみハハ伽藍

巖重なりて傳教大師を祀りて今迄なり

鷹峯寂光山常照寺ハ法義宗北極林より同基ハ日乾上人あり

日源光房ハ孫宗ありて此山和尚の同基あり

日光殿ハ法義宗ありて元奉阿彌光悦の堂ハ所をすくめを

大虚房といふ羅山先生ハ卷の記をくけり

日鏡目堂ハ奥あり常行題目を唱へてありなり

石門を築き山にあり兩岩ありて具るこ板工門を構み似たり是を

靈巖寺ハ石門といふあり園行法師ハ唐志を著するの義法也

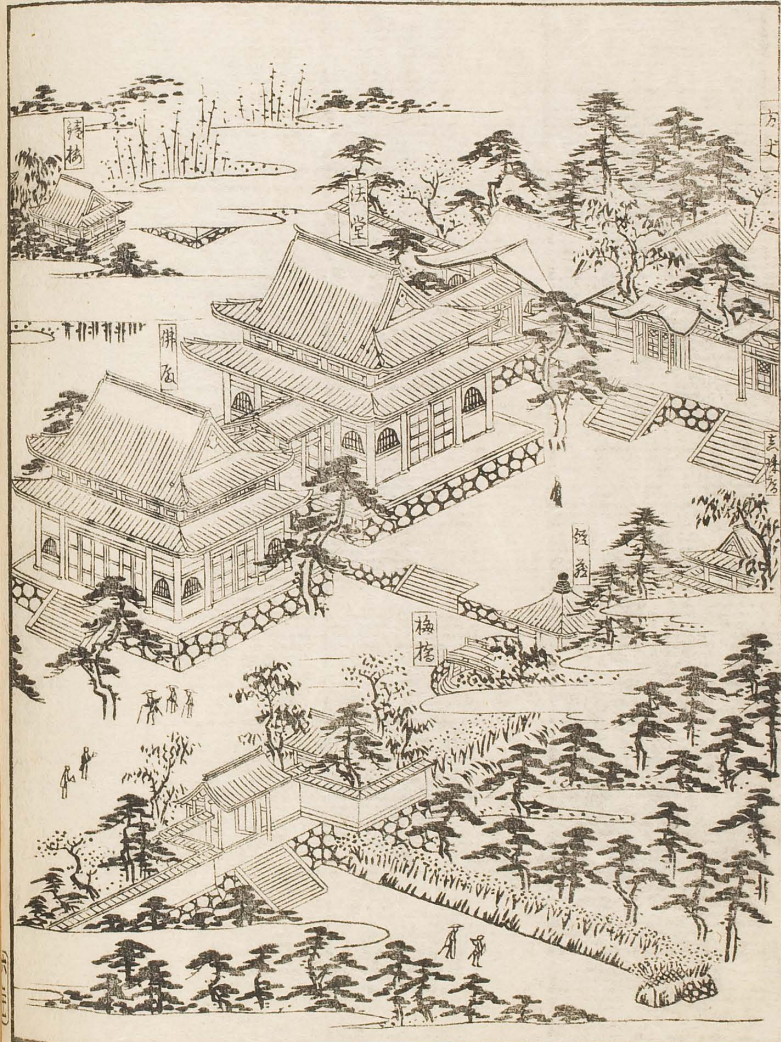
兩社の密教を授け奉れ六奉に帰朝して靈巖寺に開き

善提勝ハ鷹峯より一里より西あり

小野道風ハや一海の板板といふ所ありけ所の式神あり

冠石ハ東河内の中あり冠の形なり名とする

大徳寺





今宮社

今宮の

あつらひ

まじり

まじり
宮古

やしろ

まじり

まじり

長社



當所と
 か、後乃
 人々社
 ぬり
 ちよ
 花よ
 たり
 たの
 神
 い
 疲
 まり



紫野今宮
 二月十日
 ちよ



今更社イマシラの紫野むらさきのあり瘦うすれ神かみ二条院にじょうのいんの宇う正暦せいりき六年六月廿七日六年六月廿七日被まか開ひらけ今更イマシラと
小こは川がわにわたりわたり若わか者ものありて長保二年九月九日長保二年九月九日山やま新あらたふりて今更イマシラと
あふらるあふらる今いまの牛頭ぎゅうず天てんと物もの結むすして二産ふたうぶなり

白妙しらたけれととみくろくろくみくろくろくななりりしていついそ初はつのはつ東あづまのあづまむね 藤原長経ふじわらなかつね

孫まごは十日じふにちは夜よ須す禮らいすすののそそ加か養やう上じやう野の里り人ひと鳥とり帽ぼう子こまま禊せうすすののことことのの後のち志し
左ひだり刀やいばととつつひひ笛ふエとと吹ふ鉦かね鼓つづみををああじじけけ社やしろととあありりととややとといい花はなとと囉らいらいのの説せつ
みみ嘉か陽やうのの節ふしいいりりてて疫えきのの神かみをを散ちてて人ひととと恨うらみ深ふかままはは南なん社やしろととあありり
先まづをを押おししりりとと恨うらみととりりててまま祖それれ神かみ禊せうのの法はふ舞まひ會あひまひふふかか養やう今いま更さらににあありりててあありり
氣きととややととあありりとと恨うらみととりりててまま祖それれ神かみ禊せうのの法はふ舞まひ會あひまひふふかか養やう今いま更さらににあありりててあありり
ととそそししととややととあありりとと恨うらみととりりててまま祖それれ神かみ禊せうのの法はふ舞まひ會あひまひふふかか養やう今いま更さらににあありりててあありり
神かみ會あひまひ六月十月じゅうごくじゅうにち之の祭まつりのの七日ななち日ひ出いてて船ふね是こゝのの東あづまなるなる浮うき羅らとといいひひりり
常盤とこひらのの吉きち經けい延えん生せいあり冷ひやまのの東あづま大おほ深ふか庭にわにに侍まへふふりりたたるるたたるる義ぎ朝あさにに別わか館くわんをを
たたるる盤ひら花はなとといいひひててまま法はふ元げん年ねんにに牛うし頭ずはは取とりりててととりり

舟ふね圓まのの紫むらさ野きのれれ西にしありあり舟ふね形かたちはは細こくくとといいはは名なととせせりり應おと仁に年ねん中ちゆうにに

ふに紫むらさ野きのりり人ひと細こ川がわふふ名なれれ五ご陣じん救きう度た合あ戦せんありりて

新あらた今いままつりて羽は小こまつりまつりなり

拾ひろままりりむむししれれ人ひとととあありりひひきののああののああみみああれれせせりり也や 二条右大臣にじょうのさだ

舟ふね是こゝれれ中ちゆうふふたたくくりり女に言こと花はな渡わたりり人ひといいわわりりとといいふふ 後のち人ひと言ことにに

雲うん林りん院いんのの紫むらさ野きのありあり淳ちゆん和わ帝ていのの離り宮みやなりなり仁にん明めい天てん宮みやにに清せい子こ常じやう康かう親しん王わう

たたれれをを傳つたへへ人ひと領りやうししりり人ひと具ぐ後ご天てん曆りき帝ていのの清せい時じ僧そう正せい遍べん照しょうをを別わか當あつりり

補おぎなせせりり堂どう塔たつ嚴げんをを建たてたれれりり今いまのの雲うん林りん院いんとと唱なげてていいひひりりのの

御ご名なととりり日ひ乃の終しゆう小こののととりりむむりりいい橋はしのの名な所ところををれれをを私わが事こととといいふふ

是こゝのの林りんとといいふふ

今いまをを初はつめめるる是こゝのの林りんのの星ほしいいとと空そらををみみててううららままるる葉はととりり

浦うらふふ一いつ葉はのの宮みや人ひとううららむむりりててそののおおももたたるるとといいふふ 良よ遣しん法はふ師し

今いまのの神かみののこことともも花はなとといいふふととまま林りん院いんとといいふふととりりととりりととりり

丹國山
雲林院
蓮臺寺



七の社ハ舟岡の南小あり當社ハ深殿の後北祈願小なり二堂ハ
の春日明神祇勅書ハ後之具後伊勢平清盛稱爲加茂
松尾平野祇併なり七社と号之又一説ハ洛北少ノ七社あり
因姓小姓柏野蓮臺社上座平野爲の中小あり社有り
あつたゞ諸願ありとの社あり砂を移セ三堂ハ此狀
うのをより春日親向の棟木も此地あり

今宮ハ清藤所ハ雲林院の巽小あり毎歲五月七日奉社より神樂
遷座あり々々を茶店敷をつゞ芝居放下師奉り極乃言
終ハ於十八日神樂ありし中を極ハ終りてん方なり

上品蓮臺寺ハ千本通の小頭小あり同基聖徳太子なり其後
僧正觀空位職して志言中とありて奉尊地藏菩薩ハ
聖徳太子の御代なり又弘法大師自他ハ像祇安堂及寛平
上皇ハ所小ありて蜜權と稟のん

元亨釋書

金山天王寺ハ北野社東の門通小あり天台宗ありて奉尊如意輪觀音

ハ聖徳太子の御あり 俗陽觀音巡の 同基ハ聖徳太子と則自他乃

像祇安堂及太子堂の額ハ釋迦如來轉寔宅光所上宮太子澤跡

中心と書一七小松院の震轉なり

紅梅殿ハ天王寺のありあり所菅神の愛ハ人飛梅ハ靈神なり

清和院ハ七本松通一条の小あり真言宗ありて聖觀音地藏菩薩

の二尊祇安堂及原を系極通春日小あり今清和院門と號

明曆年中又此地を移す

具足山ハ本寺ハ日通正親町西あり法善宗ありて日像上人ハ同

基ハ祖師堂及安堂及日蓮上人の像と曹影ハ初め松永之秀

ハ男右衛門佐之進ハ侍ハ佐々木廣次ハ入者出陣の時中ハ懐刀

曹深後ハ土中ハ藏ハ盗人ハハ集々ハとらハ磐石ハ如ハハ惶ハ廣
次ハ懺悔ハて當宗門ハ及ハ尊像ハ仕ハて終ハ遂ハ

七野社



千本焔魔堂の蓮皇寺の南ふあり引接寺と号に宗旨の真言の
 本尊の焔魔大王ありて法橋定朝の他當寺に(麻基)の定光
 律師と鐘れ後あり大念佛の文永年中に如輪上人々々
 めのふけ寺に橋小普賢像といふあり弘生の花盛りとまらて
 狂ををくむる之一説小むり望乃窟に日藏上人眞土り
 いづりありの帝いまして上人ふむいて宣ふ申うの我安海小瑞つて家
 固海ふして今遠まうたうりてを文より汝安海小瑞つて家
 為小ふ草の草土海の供養とて一首れおと海のふ
 つるく控居の底ふ入ぬまの利初も首陀めつころり
 日藏肝海袖小あまり煮ゆらとつての差形りけ有坂奏聞して舟屋ふま
 十本れ草土海の供養當寺へ遠まうたうりてを文より汝安海小瑞つて家
 大報恩寺の引接寺の西ふあり千本釈迦堂といふ本尊釈迦佛の安河孫
 の能之宗旨ま言ふまうて用是求法上人の
 表三月は是敷授の法舎あり
 世人あちをこていまりて



轉法輪寺



北野天満宮



小孫の玉城の小西の方より天曆年中に...

小孫のまふまめでなりたり

白河院の清くはあそびかたれりふりて...

白河院の清くはあそびかたれりふりて...

白河院の清くはあそびかたれりふりて...

白河院の清くはあそびかたれりふりて...

天満天神宮 中殿 中將殿 菅丞相 菅二巨嫡子 吉祥女 右大臣小方

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

菅家れ徳元いあそびかたれりふりて...

とありては於て朝日寺の僧最珍右京れ文子等と力を合せ靈祖成儀り
天徳二年右大臣師輔を返も神威をうやまし魏々多の大慶とありたありと
るるの今これ小形宮皇一系院の御宇に暦四年八月に勅使を宰府に安
楽寺小法師大政を長正位を賜りあり末社小形宮といへば一徳乃
松よりい初小形秘れほへありとあり也 巳上 徳志
二月廿又日葉程の御供に御神事あり七月六日へ湯ふまくと兼詣人四
殿に入神寶虫干あり九月四日尚社の祭れあり

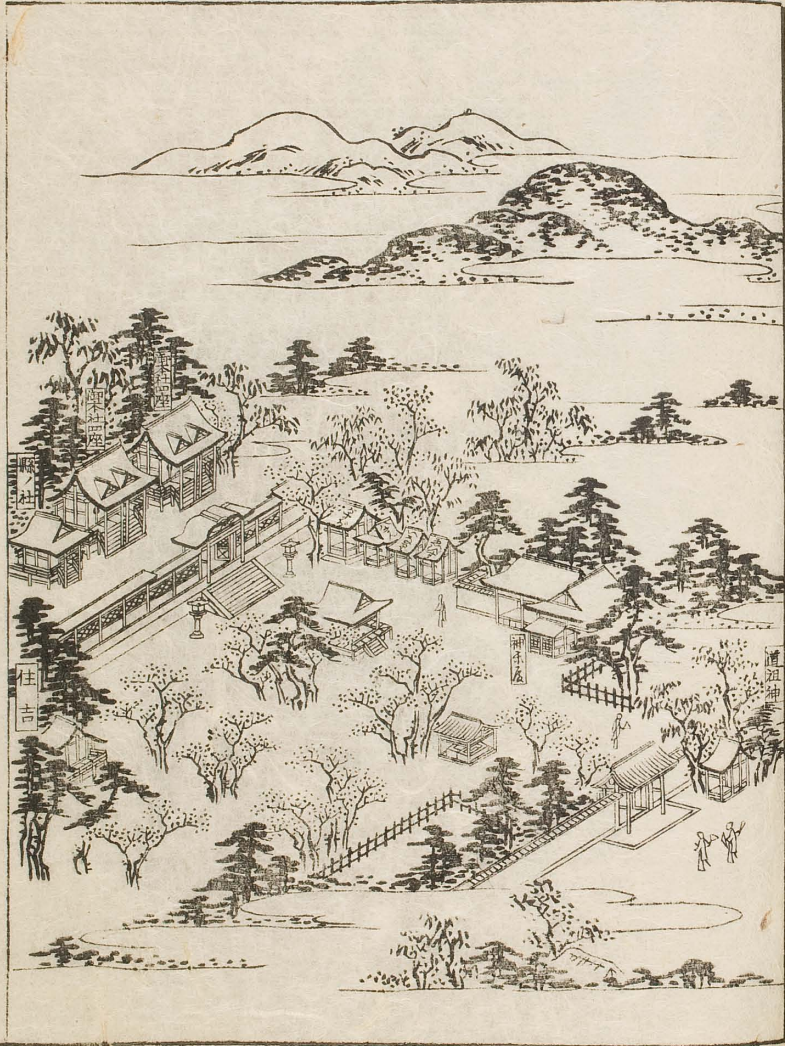
日向觀音の志明塔れ西例小あり奉るへ板橋の二村及び菅井御あり
きぎまをの八十面觀世をあり
預成統寺の日向松の坪小あり奉るへ板世多寶佛に二るありは寺と
足利將軍義満公の名氏清と内時小於て合我あり義海討集とありて
氏清の首級海より氏清の妻の勇士より其人其退悼れたれとて道場坂
建一乃那の妙典と漢語のいひたり故に経王堂ともいふ

平野社の小形より乾みあり奉る神四倉より深平為階大江は四姓乃
氏神より才一今本社 日本武彦 保氏 才二久度社 仲夜天皇 平氏 才三吉岡社 仁徳天皇 菅原氏
才四比咩社 天照右神 大和氏

縣社の天穗日命 中保清系一也 菅原村麻呂 四姓は氏神より奉るへ板武天皇延暦五年
中に建立せり清くくわん正一位清和天皇貞觀六年七月十日小形川
を乃々例系い九月上の申れ日あり

拾遺 生かげきりりり 東れわや松よされ葉まきまきまぬく 元輔
新波はよきまよりやせなるれやまぬく松よされ白鳥 家隆
ちりちりやまぬく松もたへをりね候妻のたれさるるめ まも人 ちりり

紙屋川といひむうけ川のやよりみ紙をすれ高より
大嘗会の湯とれ荒見川の積ら平野の橋よりわしよと約く之を名見
川の紙屋川の別名より又ね和川ともいひり仁知古歴よりて来り
紙屋川のそりまてま院をより造らつげゆらうといひたり



平野社

新子載

あつたゆめ

平野の

くま

あつた

花候

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



小北山

平野

平野川

平野



金閣寺

金園寺いよ珍れ乾衣堂このぬりゆらんあり禪宗ありて鹿苑寺といふ
 應永四年に將軍義満公鹿苑院高園とたゞ花巻坂はく一金鉤とて
 一面小松の園のふか比彦うて九山八海とるけけつう高るさぬあり
 金園之重みして第一を法水院とて孫院のこるさる意圖師は像身二坂潮
 音洞といふ自然木の窟者身二坂窟竟項といふ後小松院勅額あり根松之間四面
 ひうの境地とるけけつう一り熟門ハ紙屋川の西今の地蔵院の傍
 あり礎今みあり所を芳澤といふ金園れ廻りさる池ありて芳澤れるん
 反橋紙架と流れるに拱小橋あり巽に小祈堂あり東に地藏堂其
 地を地藏寺といふ其小又塔あり寺を弥勒方丈小又塔あり紙目寺
 と號しぬ小方れ寺親け地小とてこれらあり
 鏡石ハ金園寺れ小紙屋川のうみあり石面ハ晶れあつく乾と迂とて紙
 のて名とせり
古寺堂
うそと玉れあるる髪やかえりて人鏡れ乾小とて白書
貞之

鏡石ハ物ハ乾とてうりて
 而してありて乾とてありて
 居士ハ仙人清くハ石あり
 散塵とてて石面鏡といり
 一人の五徳ハありて獲
 わるる其則其形似あり
 一とてとられりといふ
 一とてとられりといふ





院持等





龍安寺

等持院の衣笠は藤にあり

開基の善室園師よりて三利尊氏公に建立ありしより仁和も乃
一院として本尊の地藏菩薩大聖歡喜天の堂鎮守六請明神等
今に五三と云ふ所の遺跡あり等持院の堅額に相成義満公の
足利家果代に昭堂の慈照院義政公のつとよりあり證果の額に
開基の善室は等持院の

衣笠といふ等持院のうしろあり仁治年中に内大臣藤原家良に
別荘と建つ衣笠内大臣といふ屋あり

新二階
このころの都のいぬ井家守の内山に禁ありたり 衣笠内府
繪掛といふいむう寛平法皇清室に於てある月の卷天は海
香に眺み好むといひ筆に白紙繪紙のけこせまをけりたると
あつといふ傳へ

小松内大臣重盛の草將の地は衣笠のふさる禁あり

衣笠の善安寺の等持院は西小あり

開基の義天和尚文明年中に細川右系大夫勝元とてありしより
初いた大長實能公の山莊あり徳大寺公有公の代細川勝元は地と云
傳りれあり奉る釈迦佛大元達磨は像は東西に壇小あり惠光探師
像細川勝元の像善安寺の山莊あり画は東福寺北殿司にあり
方丈の勝元の館兼院といふところなるは築は地邊の風色は勝元の
物敷ありし地は衣笠の山莊あり遠小園の一陽來復あり温
氣ゆるり奉る池は面は水もむれありきき冬の眺むるは
善安寺は聖譽とて名ふる

真如寺の衣笠の善松原村の西小あり

開基の善室は師奉る釈迦佛は光園師像壇下小安に達磨佛は
善室は之に 是れ根壇小安に 初は善著尼といふ人といふ處に結て正願堂
といふ康永年中に善武藏守師直修造とてあり





杉林寺
 松の三々
 白ひれ
 巻の
 藤寺
 切溜乃
 月も
 新ひの
 十七
 入道一品



雙
 岡

正法しやうほふの妙せう公こう寺じは法安ほふあん寺じの南みなみ木辻きつじの西にしあり開ひらく園えんの園えん信州しんしゅうの人ひとあり
 一いつと世よ洛らく小せう本ほんあり大だい灯とう園えん隔かく小せうより七しち夜や新しん園えん小せうより一夕いつせき園えんの園えんの字じ飯はん
 會かい後ごと大だい燈とうままとと門もん大だい師し來らいたりと差さ入いて園えんと號ごうを後ご醍たい醐ご希き乃の
 同どう小せう若じやく寺じよりままも尊そん青せいははるる其その後ご花はな園えん法ほふ堂どう祿ろく苑えんととて園えんとと任にん職しやくと
 寺じの則すなは法ほふ堂どうも方はう丈じやくの後ご小せう院えんといいもも又また任にん職しやくのの寺じのの法ほふ堂どうと
 佛ぶつ殿でんの本ほん多た釋しやく迦か佛ぶつ右みぎ阿あ難なん達だつ磨ま臨りん濟じ脇わき壇だんのの神かみ牌はい花はな園えん後ご法ほふ堂どう後ご法ほふ堂どう院えん後ご法ほふ堂どう院えん院えん
 法ほふ堂どう小せうにあり經きやう藏ざうの東あづまにあり玉たま鳳ほう院えんの西にし小せう唐たう門もんあり頼らいの法ほふ堂どうに
 淨じやく表へう寺じなり

妙心寺十境 和漢禪刹次第出
 萬歲まんざい山さん 仁和寺にんわじ 百花洞ひやくかくどう 玉鳳院内たまほうえんない 高安灘かうあんなん
 麒麟閣きりんかく 玉鳳院たまほうえん 宇多川うたがわ 妙心寺のせうしんじの 齊宮社さいみやうしゃ 東外川端とうがいせん
 度香橋たうかうきやく 南門前なんもんぜん 鷄足嶺けいそくりやう 小山こやま 南華塔なんわはたか 東寺塔とうじたか
 舊藉田きうせきでん 妙心寺のせうしんじの 花園はなえん

雙園しやうえんの妙公寺せうこうじの西にしあり二三園相並さんじゆあひなみたり

一いつと小せうのの墨すみの初はつ秋しゆ秋しゆれれとと時とき々々ゆゆももりり 後宇多院ごうたごえん
 一いつとと雙しやう園えんののままのの小せうままのの夕ゆふ日ひの色いろととりり る相るあひ

一いつとと雙しやう園えんののままのの小せうままのの夕ゆふ日ひの色いろととりり る相るあひ
 兼好法師けんこうほふしの四しの二にの園えんは西にしの麓ふもと小せうありと近世園きんせいえんの東あづま長なが安やすのの園えんととりり

一いつとと雙しやう園えんののままのの小せうままのの夕ゆふ日ひの色いろととりり る相るあひ
 兼好法師けんこうほふしの四しの二にの園えんは西にしの麓ふもと小せうありと近世園きんせいえんの東あづま長なが安やすのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり

法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり
 法金剛院ほふきんかうえんのの立たちちありむむの清原真人きよはらまことと野跡のあと別荘べつしやうのの園えんととりり





御室仁和寺の真言密宗は是地よりくわち光孝天皇の御願にて仁和
四年八月にいりてあり代り法親王は勢ありて御門跡と稱し
ゆへにいふにほりたりとや御宇と号するは宇多天皇御
出家の後延喜元年十二月に御室とい所を建ててのゆゑ之を永
御門も天曆六年御出家ありてい所よりいなり

金堂の本尊は阿彌陀佛観音勢至脇士といなり観音院といふの観
世音とせぬは御師堂弘法大師自他の像殿壇小堂東法皇は
宸躬安んじ又塔九所明神十二権現経藏園伽斗下京の之に
若本甲斐が等といふま當に住境ありてむりたり振舞い一山獄
近々にはほのみありていそげしく枝葉とほとく樹るくは屈曲
ありてい所は御親供の御文花に盛みお都れ茂穢を托綿と事
ひ幕引といふ松の酒小畑一李白恨の長繩といく西花れ白日と繫るに
海といふ春色の風客花小めく日張押むといは一藩あり

御室仁和寺の西小ありは所は破れなき寺あり

山家 志すまそくあつておにせりれ々れくは御やう乃川 西行

妙光寺は御所の里にあり神の因大臣藤原継の長男右少将忠兼
追福のため小に別業坂寺といふ妙光禪寺といふを御基に法燈
園師あり本尊は釋迦佛と安んじ寶陀庵の類の本尊和尙の等之業
臺の旧地いりての山上にさる印金堂の堂内は四方鏡系金成押く
當所の莊観さくといふなり

泉谷の法藏寺は茂葉宗派ありて百拙和尙の御基あり日所西来寺
といふ法藏寺といふ本尊阿彌陀如来の惠公僧教れなりといふあり
五臺といふ般若寺あり御基の観賢傍に本願の大江玉剛朝長あり
宗有真言古義ありて本尊の文殊菩薩善後阿彌陀堂に阿彌陀観音
勢至の之をいふなり観賢僧正の産禪といふの寺ありてあり園伽井の
堂れりといふあり





三般寺
三寶寺

唱游
五智如来



五智如来の如来たる所の山に石殿の五智如来の御影あり

石佛とありされ皆単稱法師けきこみあり

三寶寺の西の山の上ありて日蓮宗ありなきありて釋迦の

上にあり開基の日蓮上人とあり

泉殿といひ妙老古と般差との間にありむらゝる御院に浄土堂法

親王の所に浄室といふと信せのあり

山樵記
此の彼岸み故まのゝあり佛のせんゝと泉殿のあり

長尾れ松系れ人垣とく

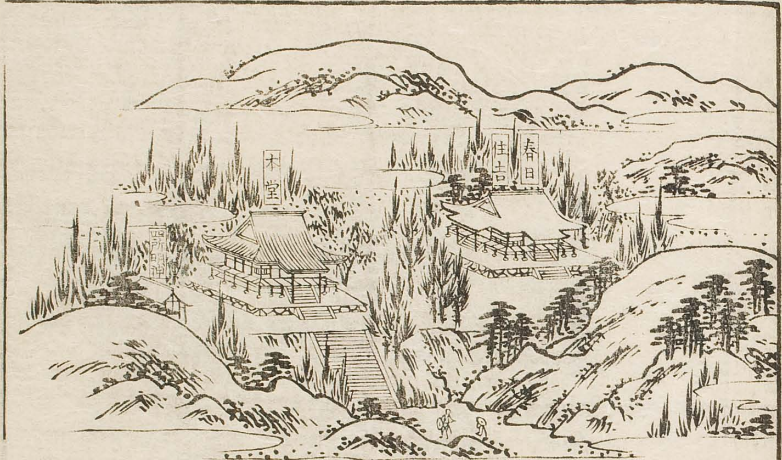
ありよの松れありりの春色すて憂をいれ心後ありたり 寺僧念記三

御茶みまのつたて

さうねくて清にわらぬきとんれあふせんをばあひ

平岡の八幡宮の弘法大師の勧誘ありゆらに大なる里人ふ社とをたれたり

梅畑若女といふ若女は小松と梅尾小属といふ若女の社とせり入まは若女といふ



柵尾山高山寺
しほのおのてしやうこうざんじ



新後撰
 くら
 さくも
 雅の
 くらん
 花さぬ
 桂のおふれ
 あけ湖のを
 雅経



榎尾山西明寺
えのすゐさんせいみやうじ

西明寺
せいみやうじ



高雄山神護寺

欽定四庫全書

古今遷建曰帝都天子之居天子以四海為家豈有常處哉惟其所在即以為都都者人之所都會云爾以衆大而言謂之京都周公相成王都洛邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽與抑平安者天下之中而有德無窮之都也從長罔之遷都已來歷千載而賢聖在位景星見於天由是庶民浴泰平之化時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁令模之還尋昔人之經蹟詳記其由緣全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歷年所况予撰不涉年
寡聞淺識何雪其耻後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
岾安永九年也

選者 平安 秋里湘夕



畫工 浪花春朝齋竹原信繁



彫工 京師

永島六右衛門
山本長左衛門
伊澤又治郎

安永九年

子中秋

同 浪花
京寺町五条上九下
吉野屋為八梓

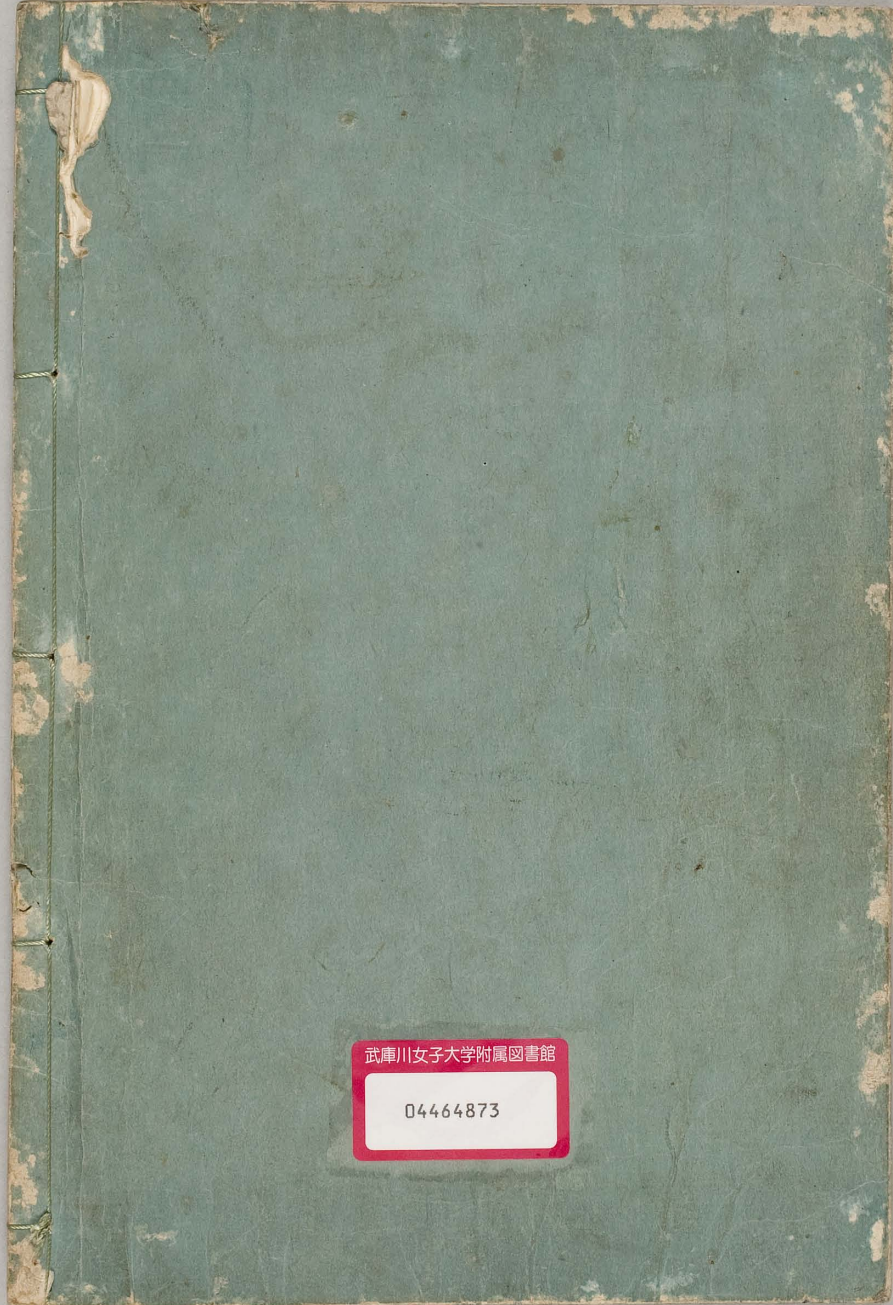
山城名勝志

全部二十二冊
圖十二枚箱入

山別名跡志

全部二十二冊

此書ハ山城郡中津社佛圖の傳記高貴秘藏乃書
歌人英哲等の経歴を数百編の引書に於て詳し
記し舊本と正と一助とするの云あり
此書ハ山城郡中津山出谷神祠州堂一宇も現るに
其由縁を詳記し在存れ地ハ白圍城冠々亡廢の
地ハ黒圍と並て其虛実を辨む山別の名所と好む人
巡覽せしむるにわづらふあり



武庫川女子大学附属図書館
04464873